

[掲載紙] 読売新聞「レンゲツツジ」

[掲載日] 2016年8月29日

[テーマ] イヤイヤ期に向き合う

2歳になった長男が何かにつけて「イヤ！」と言うようになった。起きるのもイヤ、食べるのもイヤ、着替えるのもイヤ、遊ぶのもイヤ、寝るのもイヤ。私からの働きかけはすべてイヤで返ってくる。

イヤイヤ期が始まるのは自我の芽生え、そのことは育児書で読み、知っていた。ただ、知っていることと実際に体験することとは大いに異なる。子どもの成育にとって大事なものと頭で理解しても、なかなかつらい。何がつらいついて、長男は妻に対してはめったに「イヤ！」とは言わないのだ。

私が意識して長男とやり取りするようになったのは、次男を身籠^{つわり}って悪阻に苦しむ妻の負担を少しでも減らそうとした時からである。平日でも、朝のおむつ交換と食事、お風呂、寝かしつけなど、出来ることは全てやるようになった。出産日が近づき、次男誕生以降は妻が長男の相手をしづらくなるだろうと思った私は、長男の相手をする時間をより長く取るようになった。長男が保育園で流行の病気をもらってきた時には次男にうつさないようにともっぱら私が相手をしたので、妻と次男の母子家庭と私と長男の父子家庭が一つ屋根の下で暮らすような感じであった。

ところがである。そうした時間が全く存在しなかったかのように、長男は私を拒否する。毎晩私と手をつないで眠っていたくせに、今や私の寝かしつけを断固として受け入れない。今夜中に片付けなくてはならない仕事が気になり、無理やり寝室に連れて行こうとすると、暴れたり泣きわめいたりする。仕方なく妻が長男とともに寝室に向かう。

居間に取り残された次男と私。先に覚悟を決めたのは次男である。最初は母親がいなくなって泣いていたが、10分後には私の腕の中で眠りに落ちた。その日以降も私の寝かしつけを受け入れている。これまでのところ夜中に起きることもあまりない。彼のおかげで何とか私は、「パタニティーブルー」（父親が仕事との両立でクタクタになったり、育児に自信をなくしたりして、憂鬱^{ゆううつ}な状態に陥ること）に陥らずにすんでいる。

さて、長男はどうなったか。久しぶりに母親と2人きりになったことがうれしいのか、遅い時間になってもなかなか寝てくれない。そこで先日、次男を寝かしつけた後の私も加わって川の字になって寝たところ、長男は妻と私の手を両方の手で握って、満足そうな顔で眠りに落ちた。

そうか、長男は、弟が生まれて一人っ子ではなくなり、さみしかったのかもしれないな。身近に遊び相手が出来てうれしいだけではなかったようだ。弟に親の愛情を半分に奪われたと感じさせてはいけないので、これまで以上に意識して時間を作ってあげなくては。週末は彼の大好きな公園に連れて行ってあげよう。

ということで、私をゴルフに誘ってくださる皆さま。参加はいま少し先のこととさせていただきます。群馬の自然に囲まれた美しいコースでゴルフを楽しみたい気持ちは強いのですが、事情ご賢察の上、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕